

「芸術科(書道Ⅰ)」学習指導案

広島県立府中東高等学校
教諭 藤井直子

- 1 実施日 令和7年12月17日(水)
4限 11時55分～12時45分(50分)
- 2 学年・学級 1年2組 書道選択者 4名(男子3名、女子1名)
- 3 単元名 漢字の書 一文字の造形を学ぶ(楷書・牛欄造像記を生かした創作)一
- 4 使用教材 書Ⅰ(光村図書 48ページ～49ページ、72ページ～73ページ)

5 単元について

(1) 単元観

本単元は、高等学校学習指導要領(平成30年告示)芸術(書道)編 第2章 各科目 第10節 書道Ⅰ 3内容 A表現(2)漢字の書のア知識や技能を得たり生かしたりしながら、(ア)古典の書体や書風に即した効果的な表現 及び(イ)意図に基づいた表現について構想し工夫すること。及びB鑑賞ア鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、(ア)作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えることを受けて設定したものである。

本単元では、漢字の書を通して、楷書の書風の異なるものを鑑賞・臨書することから、さらに書風の異なる古典の表現方法を探らせたい。他者と協力し相互に作品を鑑賞し合うことと臨書を通して、その能力や幅広い表現を楽しむ態度を伸ばすことに繋げたい。

(2) 生徒観

本校では、「研技修文」の校訓のもと、各科(都市システム科、インテリア科、普通科)の特徴を生かし、魅力ある教育内容を提供し、地域から愛され、支持され信頼される学校を目指している。本校の生徒は学習に前向きに取り組もうとする姿勢がみられる。書道の授業においては、挨拶や磨墨や道具の片付など、基本的なことや指示されたことは、素直に受け入れ行動することができるが、準備に必要な時間が長い生徒が多く、全体を待つ時間が長くなる。

また、筆の扱いにまだ慣れていないので、思うような技術が伴わず苦心している。さらに、生徒は、真剣に取り組む姿が見られるが、なかなか自分の発想や言葉や表現に自信をもつことができないので、やや消極的な態度になっている。

なお、1学期の授業アンケートでは項目で、「先生はプロジェクターや個人用PC等のICT機器を使ったわかりやすい授業を行っている」に対する「そう思う」という回答は、75.0%であった。昨年度の回答は60.0%だったので、本授業でのICT活用の効果が上がってきていると考える。

(3) 指導観

授業中に意識していることは、多くのことを目標にすると、結局、何も達成できなくなりがちなので、目標は小さなものをひとつに絞るよう心掛けている。授業中の生徒への指示は、同時にしないよう、生徒の様子を見ながら説明するよう心掛けている。生徒の手元に常に成果物(作品とワークシートとデジタル)を残し、いつでも見返したり確認したりできるようにしている。机間指導では、目標の達成に向けた生徒一人ひとりの努力や取組を褒める機会を逃さないよう形成的評価を意識している。

その他、教室環境整備は意識し、黒板周りやスクリーン周りには注意し、板書やスクリーンの見え方や映し方を工夫している。個人の道具や学校の道具については、扱いや手入れを丁寧にする授業習慣を心掛けさせたいと考えているので、毎時間、根気強く指導を続けている。

主体性を育む一助としてICT(本校ではロイノートを使用している)を活用し、生徒が学びの成果物を一覧できることで、学びの軌跡を見させていきたい。しかし、生徒によっては作品の画像を撮り

にくいパソコンもあり、負担に感じる生徒もいるので、こちらの工夫も必要である。学習過程や思考過程を可視化させ、生徒自身が自ら主体的に学んでいく力を養っていききたい。

本単元においては、漢字の五書体を理解した上で、楷書の特徴をより理解し、書体ごとの美しさや面白さを感じさせたい。より美しいと思う書体や、惹かれる書体や書風はなぜそのように感じるのか「鑑賞のための言葉」を活用し、自分の言葉で伝えられるようにさせたい。そして、学習前に表現した楷書の創作作品と学習後の古典を生かした楷書の創作作品を比較させることで、楷書の書風について理解させる工夫をする。単元観で示した資質・能力を伸ばすために、生徒の実態に合わせて、繰り返しの学習機会を増やし、生徒がわからないまま次に進むのではなく、理解して進むことができるよう工夫している。

6 単元目標

(1)「知識及び技能」

- ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。
- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。
- ・楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。
- ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。

(2)「思考力、判断力、表現力」

- ・楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。
- ・楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」

- ・主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組む。

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。(知識・表現) ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。(知識・表現) ・楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。(技能) ・楷書の古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。(技能) ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 [共通事項] 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。(思・判・表現) ・意図に基づいた表現について構想し工夫している。(思・判・表現) ・古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。(思・判・表現 鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。(表現)

8 単元の指導計画(本時は 第5次 1 時間目)

次	時	学習内容	評価規準								評価方法
			●記録に残す評価				◎学習のための指導に生かす評価				
			知表	知鑑	技	思表	思鑑	態表	態鑑		
1	1	書体の特徴を理解する 五書体で、「自分の名前(一字)」を書く	◎		●			◎	◎	・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。	作品 ワークシート
2	1	楷書の書風	◎		●					・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。	作品 ワークシート
3	1	牛橛造像記 一字臨書「若」	◎		●					・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。	作品 ワークシート
4	1	創作のための 草稿作り	◎		●					・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。	作品 ワークシート
5	1	牛橛造像記の書風で 創作作品の制作 作品発表 作品鑑賞	◎			●	●			・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成及び意図に基づいた表現について構想し工夫している。 ・主体的に楷書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	作品 ワークシート

9 本時の展開

【本時の目標】

古典の用筆・運筆の特徴を生かして、一字書を表現する。

【観点別評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成及び意図に基づいた表現について構想し工夫している。	・主体的に楷書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。

【本時の展開】

学習活動	指導上の留意点 (◆努力を要する生徒への手立て)	評価規準	評価方法
<p>○前時までの復習 漢字の書の特徴 楷書の特徴 牛橛造像記の特徴 創作のポイント</p> <p><u>問い: 牛橛造像記の書風で書くにはどのような起筆と収筆がふさわしいか。</u></p>	<p>◇ペア(グループ)で楷書の特徴を挙げる。 ◇牛橛造像記の書風はどのように書くのがふさわしいか考えさせる。 ◇創作のポイントを挙げさせる。</p>		
<p>【本時の目標】 古典(牛橛造像記)を生かした一字書(自分の名前)を創作する。</p>			
<p>○墨を磨る。</p> <p>○大筆で書く。 名前は書かない。 落款は印のみ。</p> <p>○ロイロノートに<input type="checkbox"/>入力。</p> <p>○作成した作品を発表・鑑賞し合う。</p>	<p>◇濃墨液を加える(時間短縮のため)</p> <p>◇半紙3枚配付</p> <p>◇2枚書いて、好みの方に押印</p> <p>◇ロイロノート</p> <p>①創作作品の画像を張り付けさせる。 ②「表現できたこと」と「面白くできたこと」を工夫したポイントとして<input type="checkbox"/>入力させる。 ③振り返りを<input type="checkbox"/>入力させる。 ・作品制作の前と後の比較 ・漢字の楷書の創作作品を制作して考えたことや感じたこと。</p> <p>◇それぞれの表現のイメージと工夫したポイントと振り返りを述べさせる。 (<input type="checkbox"/>入力した内容を述べさせる) ◆工夫点を述べるのが難しい場合は、振り返りのみ述べるよう助言する。</p>	<p>古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成及び意図に基づいた表現について構想し工夫している。</p>	<p>[思考・判断・表現] ワークシート</p>
<p>○まとめ・振り返り</p> <p>○片付け</p> <p>○提出</p> <p>○次回の予告</p>	<p>◇表現の工夫をまとめ、振り返りを<input type="checkbox"/>入力する。</p> <p>◇半紙ばさみ (本日の作品はのりづけなし提出) プリントばさみ</p> <p>◇1/7(水)より仮名の学習</p>	<p>主体的に楷書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。</p>	

10 板書計画

本日の内容

① 創作『(自分の名前)』 押印まで

A 古典を生かす

B 半紙に対しての文字の大小

C 墨の潤濁(にじみ・かすれ)

D 文字造形の工夫

② 作品鑑賞(緑カード入力・発表)

③ 振り返り(青カード入力)

提出 作品一枚(のりづけなし)

ロイロノート

次回の予告

1/7(水)④ 仮名の書

11 ロイロノート画面

完成した作品を見て、鑑賞の言葉の当てはまるものに赤い点をつけてみましょう。

1 五書体の楷書

2 牛欄造像記風の楷書

表現できたことは、

さらに表現したいイメージは、

工夫した点は、

面白くできた点は、

振り返り 1と2を比較すると、2の方が、

漢字の楷書の一字創作は、初めてだったが、

スタート

鑑賞のための言葉
点圖や用語の特徴

1 太い
2 長い
3 短い
4 抑揚のある(イントネーション)
5 一定した
6 直線的
7 曲線的
8 急な
9 緩やかな(ゆるやか)
10 とがった
11 丸みのある
12 露鋒(起筆の際、穂先が外に)
13 藏鋒(起筆の際、穂先を内に)
14 開放的
15 緊密
16

字形の特徴
17 背勢(二本の縦画がそむく造形)
18 向勢(縦画がふくらみ向かい合う)
19 縦長
20 横長

イメージ(風塵)
21 温かい
22 冷たい
23 柔らかい
24 硬い
25 優しい
26 厳しい
27 穏やか
28 鋭い
29 くつろいだ
30 張り詰めた
31 力強い
32 柔和な
33 たくましい
34 しなやかな
35 重厚
36 軽快
37 豪快
38 優雅
39 大膽
40 繊細
41 素朴
42 洗練
43 安定
44 変化
45 均整の取れた
46 自由な
47 謹厳
48 奔放
49 落ち着いた
50 躍動感のある
51 伸びやか
52 端正
53 おおらか
54 緻密
55 親しみやすい
56 気品のある
57 華麗
58 質素